

SNSと言葉

長生村立長生中学校 二年 森 杏胡

「気持ち悪っ！障がい者かよ！」

「お前なんか、生きてる価値ないよ。」

どうしてこんな言葉を書き込んでいるのだろう。たまたま目にした投稿のコメント欄を見て、そう思いました。まるで、人の言葉じゃないみたいな暴言の嵐。いわゆる「誹謗中傷」です。私は、自分のことではないのに、とても暗い気持ちになりました。そして、その後もずっと胸がモヤモヤしていました。なぜこんなひどい言葉が言えるのだろう……。そんな思いが、私の頭の中を駆け巡りました。

それからというもの、他の投稿でも、誹謗中傷を目にすることが多くなりました。その度に胸が痛くなって、「こんな思いをするくらいなら。」と、SNSをあまり見なくなったこともありました。

今の時代、連絡目的や交流目的で、ほとんどの人がSNSを利用していると思います。私もスマホを持ってからは、SNSを毎日のように利用していて、「こんなに凄いツールがある現代に生まれてよかった。」と思うことも少なくはありません。しかし、そんな便利なSNSも、一つ使い方を間違えるだけで、誰かを傷つけてしまうということを知りました。

中学二年生のある日。授業で、SNSについての動画を見ました。誹謗中傷が原因で、アイドルが活動をやめてしまうという内容でした。そのアイドルは、何も悪くないのに、居場所がなくなり、活動をやめざるを得なくなってしまったのです。誹謗中傷された人だけが一方的に傷つき、こんなにも人生が変わってしまうなんて……。こんなのおかしい！間違っている！みんなやっているから。顔が見えないから。そんな理由で発せられた言葉で、画面越しの誰かが、深い傷を負ってしまうことがあります。だからこそ、面と向かって話す以上に、一人ひとりがよく考えて言葉を発することが大切なのではないのでしょうか。

「言葉は時として、刃物より鋭く人を傷つける。」

タレントの前田武彦さんの言葉です。言葉は一つ使い方を間違えれば、誰かを悲しませてしまいます。そして、時には、一生消えない傷を負わせてしまう「恐ろしい刃」となることもあります。本来、言葉は、誰かを喜ばせたり、辛い気持ちに寄り添ったりするためのものです。言葉によって救われることはたくさんあるのに、こんな風に使われてしまうのは、とても悲しいことです。しかし、言葉に「人を陥れる力」があるのなら、「人を救う力」もあると私は思っています。困っている人の声に耳を傾けたり、支援活動をする人を募ったり、悩んでいることを相談したり。SNSを人を傷つけるためではなく、誰かを救うために使ってほしい。私はそう思います。

一度言い放ってしまった言葉は消すことができません。デジタルタトゥーが残るSNSでは、なおさらです。だから、何か発言するときに、「この言葉を言われたら、相手はどう感じるだろう？」と一度よく考えてみてください。そして、今自分が言おうとしている言葉に責任を持つことができるのかを、自分自身に問いかけてみてください。

この世界の誰もが、「言葉の刃」を投げ合うのではなく、「言葉の花束」を贈り合える。そんな素敵な世界になりますように。